

昭和三十年四月、長谷小学校に入学しました。丁度、長谷村、犬飼町、戸上村の三町村の合併の年に当ります。振り返ってみますと早三十二年余になりますが、開校百周年に当り当時のことを思い起こしながら書いてみたいと思います。

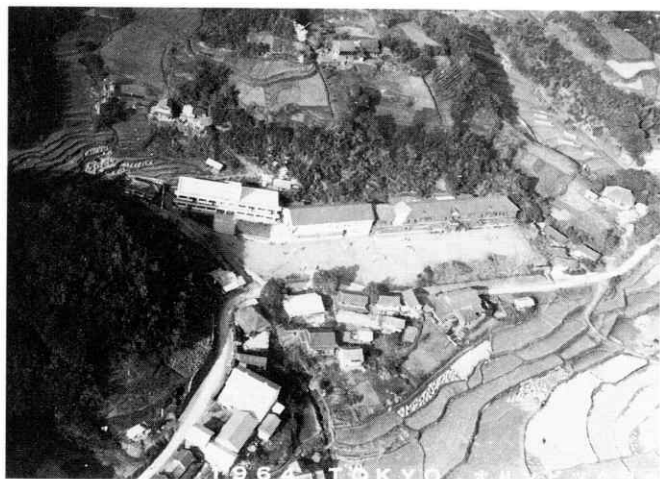
私は昭和二十二年生まれで、戦争は知らずに育ちましたが、戦後の何もない時で、子育てが大変であった事を両親や姉たちから聞かされております。今のようデザイン豊富な服がある訳でなく、いわゆる学生服のような上衣を着、中にははんでんを着て通学する者も数多くいました。袖口は、鼻水でピカピカ光り、毎日着がえる訳でもありませんでした。

また私たちは、戦後のベビーブームの時代に生を受けており、今と比べると児童数が非常に多く私の学年で八十人、一年上の学年は八十人を超えていたように思います。教室では一クラス四十人と賑やかなもので窮屈な面もありましたが楽しい毎日でした。

楽しいといえば運動会が思い出されます。児童数の多かった時代ですから当然両親を初めとする応援者もまた大変な数でした。また当時は、長谷中学校があり、運動会も小中合同で行っていたのでさらに盛り上がりました。運動場の観覧席だけでは座りきれず、各教室一階、二階とも開け放し、上から下からの応援に私共、競技する者も大へん熱が入りました。特に各地区対抗リレーともなれば、今とちがいは六地区に別れており観覧席は総立ちで真剣そのものでした。

運動会といえば、もう一つ私にとって忘れられないことがあります。

昭和二十九年、私はジフテリアという難病にかかり、入学してわずか数日学校に通っただけで、一年間の入院生活を余儀なくされました。更には心臓を悪くし、一年遅れて入学したものの運動を医者に止められ、二年生まで運動会に参加できず、くやしい、そして寂しい思いで友だちが元気いっぱい楽しんで競技する姿を、控え席で見つめながら応援したのを覚えています。



◀ 昭和39年 俯瞰図  
 (右) 小学校  
 (中) 講堂  
 (左) 中学校